第５学年
外国語科

単元名　『紹介しよう！素敵な友達！』

単元（題材）の目標

自分やクラスの友達について、友達のできることやできないことをインタビューしたり、紹介したりすることができる。文字には音があることに気付く。

（知識及び技能）

自分やクラスの友達について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う。

（思考力、判断力、表現力等）

インタビューされる人や聞き手に配慮しながら、自分やクラスの友達についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

（学びに向かう力、人間性等）

指導のポイント

この単元では、外国語を通じて、自分の内面を表現する。また、自分の周囲にいる人の新しい一面を発見し、それを紹介することによって、人と関わる喜びを体験する。

各時における指導のポイント

- 第１時では単元への見通しを持つために、最終時に「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」を開くことを伝え、そのために今日から練習していくことを伝える。
- 第２～第３時では、動作を表す表現に十分慣れ親しみ、can を用いた表現を児童が使えるようにしていきたい。チャンツや歌、ゲームなどを用いて、英語の音声を繰り返し聞いたり、言ったりして、段階的に使えるようにしていく。
- 第４～第５時では先生にインタビューする活動を通して、インタビューの仕方や答え方についてのモデルを児童に提示する。自分が友達にインタビューすることも想定させながら、本単元で学習した表現や既習の表現について振り返る。
- 第６～第８時では友達にインタビューする活動を通して、相手意識をもって活動を行うことを学ぶ。第６～第７時は「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」の準備を行う。本番を想定しながら、どうすれば友達の良さを紹介できるのかを考え、インタビューを行うように指導する。また、準備にはグループ活動を取り入れ、対話を通して内容が深まるように努めていく。グループ活動では自分に自信が持てない児童にも配慮し、互いに良いところを伝え合う良さを児童に指導していきたい。
- 本指導案では第８時のクイズ大会で紹介する相手を異学年の児童、特に低学年の児童と設定した。５年生の素晴らしい長所を低学年に伝えることによって５年生を身近に感じてもらうとともに、「５年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんってスゴイ！」と感じてほしい。外国語を使ったコミュニケーションの楽しさを５年生と一緒に経験することから、低学年にとってはこれから始まる外国語活動への期待が高まるという効果もある。また、異学年の児童との交流が難しい場合には、同学年の児童に紹介する、参観で保護者を対象に行う、地域の方に紹介する、ALT に対して紹介するなどの活動が考えられる。また、児童の実態に応じて架空の人物を紹介するなどの活動に替えることも考えられる。

振り返り

本単元では３度の振り返りを計画している。１度目は第３時の最後。自分が学んだ表現について振り返り、自分が使える表現を児童も教員も確認しておきたい。２度目は第５時の最後。インタビューのあらましについて理解した児童が本番のクイズ大会にむけてどのように考え、準備しているのかを確認したい。３度目は第８時の最後。自分たちが準備したクイズ大会についてどのような手応えを持ち、自分自身が単元を通して何を学んだのかを明確にさせたい。

深い学び

深い学びを実現するためには、今回の活動がただ楽しいだけでなく、次への意欲につながるものとすることが大切である。自分のことを知ってもらうという喜びを知るだけでなく、「もっと知ってもらいたい。もっと多くの人に伝えたい。」と児童が感じることが大切である。「スゴイ！」と無邪気に伝えてくれる低学年児童を想定しているのもそのためだ。実物を用意することも聞き手のリアクションを引き出すために役立つ。準備段階では低学年児童に紹介することを児童に意識させ、ジェスチャーや分かりやすい言葉を使わせるなどの相手意識を育む。クイズ大会の場面では英語が伝わった喜びを実感できるような教師の言葉がけなど、適切な支援を通して、児童の学びを深めていきたい。

単元（題材）の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	単元の見通しを持つ。動物当てクイズをし、can を用いた表現に慣れ親しむ。	最終時に「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」をすることを伝える。書く指導を行う際は、音声でたくさん繰り返し発話し、ゆっくりと文字と音の学びを深めるように留意する。
2	can を用いた表現を聞き、考えてクイズに答える。	表現のすべてを聞き取るのではなく、部分的に聞こえたものから推測すること大切さを伝える。
3	友達に尋ねてみたいことを考え多くの友達にインタビューを行う。振り返り①を行う。	インタビューのやり取りを通じて、言葉で人とやり取りすることの楽しさを味合わせる。振り返り①ではこれまでに学んだ表現を振り返り、児童が使える表現について確認させる。
4	He や She を用いた表現に慣れ親しむ。先生のできることを予想し、インタビューを行う。	先生にインタビューを行う際は既習の表現についても振り返り、使えそうなものはないか探すとよい。
5	４時で行ったインタビューをもとに「先生インタビュークイズ」を作り問題を出す。振り返り②を行う。	楽しいクイズ大会となるようにチーム制などにして答える活動を楽しめるようにする。振り返り②では、先生がインタビュークイズを出す際にどのような工夫をしているのかについて振り返り、自分がクイズを作成する際に参考にさせたい。
6	グループ内で協力し、インタビューされる人に配慮しながら互いにインタビューを行い、発表の準備を行う。	友達が異学年から「スゴイ！」と言ってもらえるためのクイズ作りを意識させる。インタビューを通して互いの長所に気づかせる。また、難しい内容をクイズにしたいと児童が考えたときには、言葉に頼らない表現法についても考えさせる。
7	インタビューの結果を整理し、クイズ大会の準備をする。クラス内でクイズ大会の練習を行う。	クイズで使うポスターなどを作成し、クイズが伝わりやすくなるように工夫させる。また、クイズ大会の練習としてクラス内で発表練習を行い、児童相互に良いところや工夫しているところを伝え合うように指導する。
8	「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」を行い、聞き手に配慮しながら、自分やクラスの友達についてできることを紹介する。振り返り③を行う。	聞いてくれている児童の反応についてグループのほかのメンバーが記録し、グループに還元できるようにする。振り返り③では自分が紹介した相手や、クイズに答えてくれた児童の様子について振り返り、自分が作成したクイズが人を喜ばせたことを認識させていきたい。

クイズ大会における言語活動例

児童 A “Hi！I’m A.”　　児童 B “Hi！I’m B.”　　児童 C “Hi！I’m C.”

出題者 “Who is he? Hint 1. He can jump high. Hint2. He can drink water very much. Hint3. He can ride unicycle very well. Who is he? ”

出題者 “He is A.”（異学年児童挙手） “He is B.”（挙手） “He is C.”（挙手）

出題者 “Answer is B! ”

出題者 “B can jump high! ”（B は高くジャンプをする。）

出題者 “B can drink water very fast! ”（B はコップ１杯の水を素早く飲む。）

出題者 “B can ride unicycle very well! ”（B は一輪車に乗る。）

この出題者の答え合わせ中、A と C は聞き手の児童の様子をよく観察する。出題者を交代して、クイズを続ける。

展開例（本時8 ／8 ）

本時の目標	“He can～.”、“She can～.” といった表現を用いて「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」を実施し、紹介する友達や聞き手を意識しながら友達の長所を異学年に紹介する。

	児童の学習活動	指導上の留意点
導入	○あいさつ（greeting） ○前時の復習（Review） 前時を振り返り、クイズ大会で使用する表現について発話する。 ○確認 クイズ大会の目的を再確認する。	・この後の活動を踏まえ、他者にものごとを伝えるために望ましい声の大きさや姿勢について注目させる。 ・グループとして発表する意義を伝え、グループ全員がしっかりクイズ大会で使用する表現を使えることが大切であるということを伝える。 ・クイズ大会の目的が「素敵な友達を紹介して、５年生の長所を理解してもらうこと。」「その結果、５年生はスゴイ！と思ってもらうこと。」であることを再確認する。
	異学年の児童にクラスの素敵な友達を紹介しよう！	
展開	○クイズ大会の準備	・聞き手に配慮した場・雰囲気づくりを心掛けるように助言する。
	○「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」 ①５年児童（出題者、A、B、C）と、聞き手の異学年児童で一つのグループになる。 ②出題者はまず、異学年児童に「He は男の子を表し、She は女の子を表す」ということを伝える。 ③まず自己紹介する。 ④ヒントを出し、どの児童について紹介しようとしているのか異学年児童に考えさせる。 ⑤答え合わせの際、紹介された児童は実際にクイズにした内容をやってみせる。 ⑥異学年の児童を入れ替えて、再び②から繰り返す。	・日本語に頼らず、外国語または非言語的コミュニケーションによってクイズを伝えることができるように児童に助言する。 ・異学年児童にしっかり伝わっているかを確認しながらクイズを出題し、必要ならばジェスチャーなどを用いてもよいことを事前に伝えておく。 ・出題者と紹介される児童以外の児童は、異学年児童の様子をよく見て、後で出題者に伝える。
	○時間が来たら片付けをする。	・異学年児童に「ありがとう」「楽しかった？」など声をかけるように事前に指導する。
まとめ	○振り返り③を行う。 ○あいさつ（greeting）	・グループでクイズ大会を振り返り、話し合わせた後にワークシートに記入させる。友達を紹介することによって、友達や異学年児童にどんな喜びを感じてもらえたのかということを出題者が自覚し、次への意欲へと繋げることができるようにする。